

2024 年度 入試向け

# プレテスト第一回問題

解答用紙

国語問題

算数問題

回答と配点

算数解説

国語解説



**桃山学院中学校**  
St. Andrew's School





202410030

2024年度 入試向け

桃山学院中学校 プレテスト第1回  
算数 解答用紙

受験番号				名前
P				
X	①	①	①	①
	②	②	②	②
	③	③	③	③
	④	④	④	④
	⑤	⑤	⑤	⑤
	⑥	⑥	⑥	⑥
	⑦	⑦	⑦	⑦
	⑧	⑧	⑧	⑧
	⑨	⑨	⑨	⑨

<b>1</b>	(1)	(2)	
	(3)	(4)	分 秒

<b>2</b>	(1)	(2)	年前
	(3)	円	(4)
	(5)	度	(6) cm

<b>3</b>	(1)	(2)	
	(3)	cm	

<b>4</b>	(1)	通り	(2)

<b>5</b>	(1)	:	(2)	回
	(3)	回目		

<b>6</b>	(1)	分速	m	(2)	m
	(3)	m			

合計
※

桃山学院中学校 プレテスト第一回 問題

国語 [五十分・百五十点]

注意事項

- 1 問題用紙は1ページから14ページまであります。
- 2 「開始」の合図があるまで問題用紙は開いてはいけません。
- 3 受験番号と名前を解答用紙と問題用紙に正しく記入してください。
- 4 解答用紙の余白には何も記入しないでください。
- 5 計算機能付き腕時計・携帯電話は使用禁止です。
- 6 「終了」の合図で筆記具を置き、監督の先生の指示に従ってください。

受 験 番 号				名 前
P				

【一】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(字数制限がある)  
問いは、句読点とその他の記号も一字に数える)

(1)～(16)は段落番号)

① 現在の人間たちの協力の最たるものは「職業」です。多くの人は職を持っていて、特定の仕事をすることで生きていけるようになっていきます。私の場合であれば大学教員です。大学で講義をしたり、研究をしているだけで給料をもらって、**X**を賄うことができます。私が身に付けている衣服も毎日食べている食料も、住んでいる家も、自分で作ったものではありません。作ろうと思っても質の高いものは作ることができません。その代わりに他のもっと技術のある人間が仕事として作ってくれたものを買っています。

② 現代人には当たり前すぎて普段はあまり意識しないかもしれませんが、これは大きな協力関係です。皆が自分以外の誰かのために質の高い仕事をするので、全員が安全で快適な生活を送ることができています。

③ 職業という協力関係の重要さは、誰かが仕事を辞めたらどうなるかを考えるとすぐにわかります。**【あ】**たとえば、衣服を作る仕事の人が全員辞めてしまったら、みんな自分の服は自分で作らないといけなくなります。**【い】**忙しい人は全く作れないかもしれないかもしれません。**【う】**着替えを用意しておくのも大変ですし、洗っているうちにぼろになるでしょうから、洗濯もあまりしなくなるでしょう。**【え】**衣服は汚れ、感染症も広まりやすくなるかもしれません。**【お】**現代人が安く品質の高い衣服を手に入れることができてるのは、作ることに特化した人が専門に作ってくれる

おかげです。

④ そしてそれは一方的な関係ではありません。衣服を作る人も食料や住居は別の専門家に作ってもらっています。私たち人間は、現在、社会という大きな協力関係の網の目の中に組み込まれています。

⑤ 「社会の中に組み込まれる」ということは「社会の歯車になる」ということです。この言葉にはあまりいい印象はないかもしれませんが。自分の個性とかアイデンティティが **a** おびやかされていると感じるかもしれません。しかしそれは誤解だと私は思います。むしろ社会の歯車になることでほとんどの人は個性を発揮して、みんなの役に立てるのだと思います。

⑥ たとえば、**②** 社会が全く存在しない状況を考えてみましょう。父親、母親、小さい子どもの3人家族だけで無人島で暮らしているような状況です。この場合、生きていくために必要な仕事はすべて3人だけで分担しないといけません。狩りをするのは、生物的に力の強い大人の男性である父親になるでしょう。植物や果物を採集したり、調理したりするのは、狩りに不向きな女性や子ども。もの仕事になるでしょう。たとえば、狩りなんて荒っぽいことが嫌いな男性や、採集よりも狩りの方が好きな女性だったとしても、餓えないためには身体的に向いている方をやらざるをえません。狩りに失敗したり、食べ物を見つけることに失敗したりすれば、すぐに命の危機が訪れます。また、この世界では、勉強が得意とか、絵をかくのが得意とか、コミュニケーション能力が高いとか低いなどの個性が役に立つことはありません。なにより必要なのは、獲物をしとめたり、食料を確保する能力です。力や体力が何よりも重要です。強く丈夫で健康な人間だけが生き残る世界です。

それ以外の個性には出番はありません。

⑦ 一方で私たちの社会は違います。力や体力が必要な職業もあれば、勉強や絵を描くことやコミュニケーション能力が必要な職業もあります。どれか1つの能力が優れていれば、十分に活躍の場が見つかります。少なくとも狩猟採集社会よりは、今の社会の方が自分に合った役割(菌車)が見つかる可能性が高いように思います。

⑧ こうした他人との協力からなる社会を形成するようになると、人間という生物が増える単位も変わってきます。人間以前の生き物は自分の力で自分だけを増やしていました。細菌も線虫もカエルも虫もサルも、増えることができるかどうかは自分の能力や運によって決まっていました。優れた能力を持っていれば生殖に成功し、子孫を作ることができますし、そうでなければ血統は途絶えてしまいます。

⑨ ところが協力関係の網の目の中にいる人間は違います。自分が生き残って増えるためには他の人の能力も重要です。また自分の能力もほかの人が生き残って増えることに貢献しています。自分の命が大事なと同じように、他の人の命も大事になっていきます。増える単位が自分の体を超えて広がっているといってもいいかもしれません。

⑩ このような大規模な協力関係は人間ならではの特徴です。人間以外の生物が非血縁個体と協力することは、特殊なケースを除いてほとんどありません。なぜ人間のみでこのような特殊な能力が生まれたのかについてはいろいろな説があります。人間の持つ高度な言語能力や認知能力や寿命の長さが大事だったと言われる場合があります。また、それらの能力が生まれた背景には、狩猟採集生活

の中で協力する必要性があったことや、子どもが成長するまでに時間がかかることから子育てに他の個体の協力が必要だったことなどが指摘されています。

⑪ このような性質のどれが直接的な原因だったのかわかりませんが、いずれにせよ、このような他の個体との協力を可能とする人間の性質は、元をたどれば少産少死の戦略によってもたらされたものです。命を大事にして長く生きようになり、他個体と付き合うことが可能になったために協力することが有利になりました。

⑫ しかも、人間には他者を認識する知能や、他者の気持ちを察することのできる共感能力も備わっています。結果として協力関係がどんどん発展していきました。私たち人間は地球上の他のどんな生物よりも協力的な、いわば「やさしい」生物です。このようなやさしさの進化は少産少死の戦略を極めてきた生物にとって必然だったように思えます。

⑬ 現在の人間は他人と協力することでより生き残りやすく増えやすくなっています。この他者と協力をする効果は圧倒的です。地球上の人口が2022年現在約80億人に達し、このまま進めば110億人くらいに落ち着くと予想されています。

⑭ 同じくらしいのサイズの類人猿であるチンパンジーは17〜30万頭、ニシローランドゴリラは32万頭しかいないことを考えると、これはこのサイズの大型生物としては破格の数に達しています。生息域も広がり、地球上のすべての場所を踏破し、宇宙にまで進出するようになりました。それもすべて、多くの人間が協力したからこそなした成果です。人間が衣食住をすべて個人で賄っていたら、決して宇宙には到達できなかったことでしょう。

⑮ ただ、この他者との協力には弊害へいがいもあります。協力関係が増えることに対してきわめて有効であったために、人間はもはや他者の協力なしでは生きていけなくなってしまうています。

(中略)

⑯ したがって、私たちが現代の高度な協力関係で結ばれた社会を維持いじすることは、もはや義務ぎむになっていきます。これは協力することによって増えてきた人間という生物にとっては当然の結果です。私たちは協力しないと、今の人口も快適な生活も維持することはできません。協力することが増えることに貢献すればするほど、協力を善いものとみなし、他人ひとにもそれを強しいる性質が子孫の中で強化されていきます。そして私たちはますます協力するような性質と倫理観りんりかんを持つようになってしまっています。人間が協力関係を増やすことによって大成功したことが、現代人の抱える他者との関わりなやの悩みを生み出しています。

(市橋伯一『増えるものたちの進化生物学』一部中略)

問1 X にあてはまる三字熟語を①段落の内容から考えて答えなさい。

問2 ①「現代人には当たり前すぎて普段はあまり意識しない」とあるが、現代人の意識にないとはどういうことか。最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ それぞれが特定の仕事をすることによって生きていけるようになっていけるのは、ほとんどの人が職を持つことができているからであるということ。

い 私たちが身に着けている衣服や食料、住んでいる家などは、質は高くなかったとしても、本来は自分で作るべきものであるということ。

う 社会を構成する全員が安全で快適な生活を送るためには、みんなで協力して技術を高め、質の高い仕事ができるようになる必要があるということ。

え 自分でものを作らなくても、質の高いものを受け取ることができるのは、人間が自分以外の誰かのために仕事をしているからであるということ。

問3 本文には、次の一文がぬけ落ちている。【あ】～【お】のうち、どこにもどすのが最も適切か。記号で答えなさい。

きつと粗末そまつな衣服しか作れないことでしょう。

問4 —— a 「おびやかされている」、b 「強いる」の本文中での意味として最も適切なものをそれぞれ後から選び、記号で答えなさい。

a 「おびやかされている」

あ 失われる危険性がある

い 恐怖に支配される

う 重要性を帯びてくる

え 目立つようになっていく

b 「強いる」

あ よく考えさせる

い むりやり求める

う しっかり伝える

え 等しく分ける

問5 —— ② 「社会が全く存在しない状況」とあるが、そのような状況ではどのような世界になると筆者は述べているか。「個性」という言葉を必ず使って、四十字以上五十文字以内で書きなさい。

問6 —— ③ 「人間という生物が増える単位」とあるが、人間は具体的にどのように増えると筆者は述べているか。それについて説明した次の文の I ・ II ・ III にあてはまる言葉を、それぞれの ( ) 内の字数指定にしたがって、本文中からぬき出しなさい。

※自分が生き残るために、I (六字) を重視し、元々備わっている II (四字) を生かして他者との協力関係を発展させて、III (四字) を超えて増えると述べている。

問7 —— ④ 「少産少死の戦略」とは、どのような戦略か。最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ できるだけ若いうちに子どもを産むようにし、社会全体で協力して大切に子育てを行う戦略。

い 子どもの出生数が少なければ、命を失う人の数も少なくなるので、可能な限り出生数をおさえる戦略。

う 数は多くなくてもよいので、時間をかけて子どもを育て、一つひとつの命を大事にしていくとする戦略。

え 生まれてから成長するまでにあえて時間をかけることによって、全体の寿命を長くしようとする戦略。



問8 — ⑤ 「他者と協力をする効果は圧倒的です」とあるが、  
そのように言えるのはなぜか。最も適切なものを後から選び、  
記号で答えなさい。

- あ 人間は他者と協力することで、地球上のすべての場所に居  
住し、宇宙にまで自由に進出できるようになったから。
- い 他者との協力がほとんどない同じ大きさの類人猿と比べ  
ると、人間の数は破格といえるほどまでに増えたから。
- う 多くの人間たちが協力したことによって、地球上の人口を  
110億人程度におさえることが可能になったから。
- え 人間と動物が協力したことの効果として、チンパンジーや  
ニシローランドゴリラの生息域が広がったから。

問9 次の①～④の各文について、本文の内容と照らしあわせて、  
正しければあを、間違っていればいを書きなさい。

- ① 現在の人間たちにとって最も重要なことは「職業」である  
ため、仕事を辞めるということは、社会に対して協力する気  
持ちがないということになる。
- ② 狩猟採集社会と比べて現代の社会は、自分に合った役割が  
見つけやすい、各自の質の高い仕事で安全で快適な生活を  
もたらしめている。
- ③ 私たちの暮らしている社会では、力や体力にはあまり自信  
がなかったとしても、何か一つの能力が優れていれば、社会  
で活躍できる可能性が高い。
- ④ 人間以外の生物とは異なり、人間が非血縁個体と協力する  
ことができるのは、人間の方が自分とは別の個体との血縁の  
有無を認知する能力が高いからである。

〔二〕 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(字数制限がある問いは、句読点とその他の記号も一字に数える)

五年生の山田唯人は極度のあがり症で、いつも同学年でいつもの洋ちゃんに助けられてもらっていたが、今年は別々のクラスになってしまった。五年生は毎年十二月に老人ホームへの訪問があり、唯人のクラスは大型紙芝居の練習をしている。

数日後、紙芝居の練習が始まった。

好きな場面を選んで分担を決めることになった。

人気なのは、ごんがクリを持って行く場面で、希望者が多過ぎてジャンケンをした。唯人はどこでもいいと思っていたから、空いているところを読むことになった。同じ場面になったのは、綾乃、浩也、アズだ。

「初めてだからゆっくり、正しくね。慣れてきたらセリフを言うみたいに気持ちをこめて読みましょう。あとから聞き合って感想を言ってもらいますよ」

先生が言うと、それぞれに集まって読み合わせを始めた。

よかった。会話が多いところは難しそうや。地の文ならふつうに読めばええんや。

いけそうや。

そのときはそんな気がした。でもちがった。

前に出てみんなに聞いてもらうことになる、声が小さいとか、ぼう読みだとか、ダメ出しされるかもしれない。急に唯人はこわくなってしまったのだ。

少し練習をしてから、場面ごとに前に出て発表した。

すぐに唯人たちの番になった。

最初は綾乃だ。

「ある秋のことでした。二、三日雨がふり続いたその間、ごんは、外へも出られなくて、あなの中にしゃがんでいました。雨があがると、ごんは、ほっとしてあなからはい出ました。空はからっと晴れていて、もずの声がキンキンひびいていました」

二番目は浩也。

「ごんは、村の小川のつみまで出てきました。あたりのすすきのほには、まだ雨のしずくが光っていました。川は、いつもは水が少ないのですが、三日もの雨で、水がどっとまわっていました」

よけいなことは考えなくて「ごんぎつね」に集中した。浩也の声を聞きながら、文字を目で追っていると、あっという間に唯人の番になった。

「ただのときは水につかることのない、川べりのすすきやはぎのかぶ、か、かぶが……」

しまった。つかえてしまった。

一度失敗すると、ものすごくきんちようする。唯人がドキドキしてかたまっていると、

「かまへん。かまへん」

① 浩也が小声でいっしょに読んでくれようとした。

「よっしゃ、いくで。せーの」

「ただのときは水につかることのない、川べりのすすきやはぎのかぶ、か、かぶが……」

あかん。無理や。

完全にアウト。浩也、すまん。

唯人はその場からにげだしたいと思った。

みのり先生のほうをちらっと見ると、<sup>②</sup>仕方ないわねという顔をした。唯人は先生に目でうったえて、ろうかに出て行った。にげだしてしまったのだ。

おれはなんでこんなことができひんのやる。

今までにも何度か、唯人はこんなふう<sup>①</sup>に教室を出てしまったことがある。とにかく、ろうかに出てひとり<sup>①</sup>で気持ちを落ち着かせようとした。

唯人がぬけると、アズが自分の分担を読み始めた。

「ふと見ると、川の中に人がいて、何かやっています。ごんは、見つからないように、そうっと草の深い所へ歩きよって、そこからじつとのぞいてみました。『兵十<sup>ひょうじゅう</sup>だな』と、ごんは思いました」  
ろうか<sup>①</sup>でアズの声<sup>①</sup>を聞いていると、情けない気持ちになった。そのあと、またグループ練習になると、教室のみんなが紙芝居を読む声が、わちゃわちゃとひびいてくる。

こんなとき、洋ちゃんがおつたらええのに。きっと助けてくれるし、最初からおれと同じグループになってくれたに決まってる。洋ちゃんがおらんでも、せっかく浩也がいつしよに読んでくれたんやから、それに合わせればできたはずなんや。

いつ教室にもどろうかと考えながら、ひぎをかかえてすわりこんでいると、

「すねているの？」

アズが近寄って来た。

教室から勝手にぬけだして来たみたいだったが、唯人をむかえに来たわけではないようだ。見ると、Aをしている。

「どうして読まなかったの？ 唯人くん、いつもそうしているの？」

聞かれてもこたえられない。読みたいのにうまく読めなかったなんて言えやしない。

だまっている<sup>①</sup>と、アズは大きな声を出した。

「ねえ、どうして読まなかったの！ にげだすってどういうこと！」

いきなり、ものすごいけんまくだ。

<sup>③</sup>教室の窓からみんながチラチラと見てきた。

唯人はそういう子や。おこつたらあかん。

見のがしてやれよ。そつとし<sup>①</sup>いたらええやんか。

そんな目線だった。

アズはうで組みをして、唯人につめ寄ってくる。何か言わないといけなかった。

「う、うん。ど、どうしてって言われても……」

しどろもどろになってしまった。

いつものアズはこんなにおこつたりはしない。唯人がだまっていると、すぐにあきらめてくれる。本読みの途中<sup>とちゅう</sup>でにげだした唯人によつぽど腹が立ったのだろうか。

「決めたとおりに読めばいいだけじゃない！ 難しいことなんて何もないでしょ」

またバクハツや。アズは言い出したらとまらへんみたいや。いくらなんでもこんな言われようをするなんて、おれ、カッコ悪過ぎるで。どないしたら許してくれるんや？

アズにさんざんしかられていると、

「もう、そのくらいで。ね」

みのり先生が手招きをした。

唯人が立ち上がって教室にもどろうとすると、先生がろうかに

出てきた。

ほんの二、三分間のことだったけど、先生は唯人とアズのやり取りを見ていたようだ。

「八つ当たりしたらあかんのよ」

アズははっと我に返ったように静かな顔になった。

八つ当たり？ アズはおれに八つ当たりしとったんか。

「唯人くんが何か悪いことをしたんとちがうでしょ？」

アズはこくんとうなずいた。

「B

「C

「D

「E

「だってあたし、人にやさしくできないんだもの。今日だって唯人くんがこまっているのに、こんなにおこっちゃって」

アズは少しだけなみだ声になっていた。

「そっか。どうしたら自分のこと、好きになれるんやろうね」

みのり先生に言われて、アズはうつむいてしまった。

「きつとこたえが見つかると思うわ。このクラス、おもしろいんや

から。ねえ、唯人くん」

え、えっ。

急にふられて、唯人はあせった。

先生はおれに何と言ってほしいんや？

いい返事を思いつかなかった。

帰り道。学校坂を下りて行くと、空にふたをしたように重たい雲が広がっていた。いつかじいちゃんと見た凍雲だ。冬が近いと

こんな空になるらしい。

自分のことがきらい。

アズは言うてた。

おれかて、今日は自分のことが残念でたまらんよ。

学校でだれかにおこられるなんてこと、今までただの一度もあらへんかった。Fとふみこんできたのはアズが初めてや。ピ

ンチのときは、いっつも洋ちゃんに助けてもらおうか、みんなに見がしてもらおうかしてきたんや。

けど、なんかちゃうで。おこられたんはショックやったけど、

そればかりやない。今まで知らんかった。こんな気持ち。

唯人の胸の中で黒いけむりのようなものがくすぶって、外に出たがっている。あ<sup>④</sup>の雲みたいに。

「ごんぎつね」の紙芝居は、朝活の時間に場面ごとの練習をして、ときどき発表し合った。家で練習すると、すらすらと読むことができた。もう台本を見なくてもそらで言えるようになった。それなのに、やっぱりみんなの前で読むのはきつかった。「はぎのかぶ」のところでもつかえてしまうのだ。

こんなんじゃあかん。本番はどないするんや。

唯人は自分にハッパをかけ、なんとか口を動かそうとした。けど、がんばろうと思えば思うほど、口が動かなくなった。

あれ以来、アズにはおこられなくなったし、クラスのみんなは、いつもと変わらず唯人のことをヤジったりせうに待っていてくれた。けど、その空気がつらかった。ほんの数分間、いや、数秒間のことだ。唯人にはのがれられない、とてつもなく長い時間だった。

そういうやつがおってもええ。みんなは思っているのかもしれない。

ないけど、唯人はそんな自分のことが好きじゃなかった。

——唯人くん、いつもそうしているの？ にげだすってどういうこと！

アズに言われるまで、気がつかんかった。

みんながおれを待ってくれる。笑たりなんかせえへん。

それやのおれはひとりぼっちや。

唯人が感じていたのはやさしさの中の孤独。

だれかに理解してもらえないとは思えなかった。

あいかわらずさえない唯人のまま、秋は終わりに近づいていった。

(志津栄子 『雪の日にライオンを見に行く』)

問1 ——①「浩也が小声でいっしょに読んでくれようとした」とあるが、このときの浩也の気持ちを説明したものと最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ 唯人よりも自分の方が上手に読めることをみのり先生に認めてもらおうと考え、はりきっている。

い 特に難しいことのない部分でつかえてしまっている唯人に対して少し腹を立てている。

う 自分がいっしょに読むことで、唯人のピンチをなんとか救ってあげたいと思っている。

え 自分たちと同じ場面を読むことになっている唯人が失敗しそうなっているのであせている。

問2 ——②「仕方ないわねという顔をした」とあるが、みのり先生が仕方がないと考えたこととして最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ 唯人の読む部分の代わりを浩也がとめること。

い 唯人がろうかに出て気持ちを落ち着かせること。

う 唯人が同じ部分で何度も読みまちがえてしまうこと。

え 唯人が教室から出て洋ちゃんに会いに行くこと。

問3  にあてはまる言葉として最も適切なものを後から選

び、記号で答えなさい。

あ やさしい顔

い 困った顔

う すずしい顔

え こわい顔

問4 — ③「教室の窓からみんながチラチラと見てきた」とあ

るが、このときの教室のみんなの気持ちを説明した次の文の

・  にあてはまる言葉を、それぞれの（ ）内

の字数指定にしたがって、本文中からぬき出しなさい。

※  (四字) で唯人をしかりつけるアズにたいして、おこ

らずに  (五字) あげればよいと感じている。

問5  ・  ・  ・  にあて

はまる言葉として適切なものを後からそれぞれ選び、記号で  
答えなさい。

あ 何がふくらんだの？

い どうしてきらいなの？

う あたし、腹が立ってしまつて。そしたらもうどんどんふく

らんで

え 自分のことがきらい。きらい、きらいって、どうしようも

なくなつてしまうの

問6  にあてはまる言葉として最も適切なものを後から選

び、記号で答えなさい。

あ ひたひた

い ずけずけ

う こそこそ

え ぽかぽか

問7 ———④「あの雲みたい」にあるが、唯人がそう感じているのは、唯人自身のどのような気持ちからか。最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ 空にふたをしたような重たい凍雲を、もう一度じいちゃんといっしょに見てみたいという気持ち。

い 今までは当たり前のようにみんなに助けってもらっていたが、それではいけないと思う気持ち。

う みんなの前での本読みの途中でにげだしてしまった自分のことを情けなく感じる気持ち。

え 本当は読みたかったのにうまく読むことができなかったという残念でたまらない気持ち。

問8 本文中で描<sup>えが</sup>かれているみのり先生の人物像の説明として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ 困難にぶつかったときに、いつでもだれかに助けてもらえるわけではないので、問題が起きたときにはできるだけ自分で解決させたいと考えている先生。

い 大きな失敗をしてしまった子どもにたいしてもおらかな気持ちで接することができるため、クラスの子どもたち全員からの信頼<sup>しんらい</sup>を集めている先生。

う クラスの子どもたちの短所に気づいてはいるが、自分の考えをおしつけて改善させようとはせず、成長をゆっくり見守<sup>まも</sup>っていかうと考えている先生。

え クラスにはいろいろな子どもたちがいるので、それぞれがおたがいの性格を理解して、ひとりぼっちの人を作らないように配慮<sup>はいりよ</sup>していきたいと考えている先生。

問9 あるクラスで、国語の時間に本文の内容について話し合っ

た。次に示すのは、本文に登場する「唯人」のクラスの雰<sup>ふん</sup>囲<sup>い</sup>気<sup>き</sup>、「唯人」と「アズ」の思い、さらには、本文の主題につ<sup>し</sup>いて話し合っている島田<sup>しまだ</sup>さんたちの様子である。本文の内容をふまえて、X・Yはそれぞれの( )内の字数指定にしたがつて本文中からぬき出し、Zは後から選び、記号で答えなさい。

島田 とつてもやさしい子たちが多いクラスだと思うのだけれど、みんなはどう思う？

大川<sup>おおかわ</sup> どうしてもつかえてしまう唯人のことを、みんな待<sup>まち</sup>つてあげるとい<sup>い</sup>うのは、とてもやさしい、いい雰<sup>ふん</sup>囲<sup>い</sup>気<sup>き</sup>のクラスだと思うよ。

田村<sup>たむら</sup> がんばろうと思<sup>おも</sup>えば思<sup>おも</sup>うほど、口<sup>くち</sup>が動<sup>うご</sup>かなくな<sup>な</sup>ってしま<sup>しま</sup>う唯人の気<sup>き</sup>持<sup>もち</sup>ちもよ<sup>よ</sup>くわ<sup>わ</sup>か<sup>か</sup>つ<sup>つ</sup>て<sup>て</sup>いる<sup>る</sup>んだ<sup>だ</sup>ろ<sup>ろ</sup>う<sup>う</sup>ね。

西口<sup>にしぐち</sup> 人<sup>ひと</sup>にはそれ<sup>それ</sup>ぞ<sup>ぞ</sup>れ<sup>れ</sup>ち<sup>ち</sup>が<sup>が</sup>い<sup>い</sup>が<sup>が</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>とい<sup>い</sup>う<sup>う</sup>こ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>が<sup>が</sup>よ<sup>よ</sup>く<sup>く</sup>わ<sup>わ</sup>か<sup>か</sup>つ<sup>つ</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>んだ<sup>だ</sup>ろ<sup>ろ</sup>う<sup>う</sup>よ。

島田 でも、唯人自身は、そう<sup>そう</sup>い<sup>い</sup>つ<sup>つ</sup>た<sup>た</sup>み<sup>み</sup>ん<sup>ん</sup>な<sup>な</sup>の<sup>の</sup>つ<sup>つ</sup>くり<sup>り</sup>出<sup>で</sup>し<sup>し</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup> X (八<sup>はち</sup>字<sup>じ</sup>) と感<sup>かん</sup>じ<sup>じ</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>よ<sup>よ</sup>ね。

田村 みんなと比<sup>ひ</sup>べ<sup>べ</sup>て<sup>て</sup>ア<sup>ア</sup>ズ<sup>ズ</sup>は<sup>は</sup>ど<sup>ど</sup>う<sup>う</sup>な<sup>な</sup>ん<sup>ん</sup>だ<sup>だ</sup>ろ<sup>ろ</sup>う<sup>う</sup>。

大川 アズは<sup>は</sup>ち<sup>ち</sup>よ<sup>よ</sup>つ<sup>つ</sup>と<sup>と</sup>他<sup>た</sup>の<sup>の</sup>み<sup>み</sup>ん<sup>ん</sup>な<sup>な</sup>と<sup>と</sup>は<sup>は</sup>ち<sup>ち</sup>が<sup>が</sup>う<sup>う</sup>よ<sup>よ</sup>ね。だ<sup>だ</sup>つ<sup>つ</sup>て、唯<sup>ぜい</sup>人<sup>にん</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>を<sup>を</sup>し<sup>し</sup>か<sup>か</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>ば<sup>ば</sup>し<sup>し</sup>て<sup>て</sup>しま<sup>しま</sup>う<sup>う</sup>んだ<sup>だ</sup>ら<sup>ら</sup>。

島田 <sup>そ</sup>し<sup>し</sup>て、<sup>そ</sup>ん<sup>ん</sup>な<sup>な</sup>ア<sup>ア</sup>ズ<sup>ズ</sup>の<sup>の</sup>言<sup>ごん</sup>葉<sup>えつ</sup>によ<sup>よ</sup>つ<sup>つ</sup>て、唯<sup>ぜい</sup>人<sup>にん</sup>は<sup>は</sup>自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>が<sup>が</sup>感<sup>かん</sup>じ<sup>じ</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>た<sup>た</sup>の<sup>の</sup>は Y (九<sup>く</sup>字<sup>じ</sup>) だ<sup>だ</sup>つ<sup>つ</sup>た<sup>た</sup>と<sup>と</sup>気<sup>き</sup>が<sup>が</sup>つ<sup>つ</sup>いた<sup>た</sup>ん<sup>ん</sup>だ<sup>だ</sup>ろ<sup>ろ</sup>う<sup>う</sup>ね。

西口 みんなは、唯人<sup>ぜいにん</sup>み<sup>み</sup>た<sup>た</sup>い<sup>い</sup>な<sup>な</sup>子<sup>こ</sup>が<sup>が</sup>い<sup>い</sup>て<sup>て</sup>も<sup>も</sup>い<sup>い</sup>い<sup>い</sup>と思<sup>おも</sup>つ<sup>つ</sup>て<sup>て</sup>く

れ<sup>れ</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>け<sup>け</sup>れ<sup>れ</sup>ど、<sup>そ</sup>れ<sup>れ</sup>は、唯<sup>ぜい</sup>人<sup>にん</sup>と<sup>と</sup>同<sup>どう</sup>じ<sup>じ</sup>立<sup>た</sup>場<sup>ば</sup>に<sup>に</sup>立<sup>た</sup>つ<sup>つ</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>とい<sup>い</sup>う<sup>う</sup>こ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>で<sup>で</sup>は<sup>は</sup>な<sup>な</sup>い<sup>い</sup>よ<sup>よ</sup>ね。<sup>そ</sup>の<sup>の</sup>点<sup>てん</sup>、ア<sup>ア</sup>ズ<sup>ズ</sup>は Z、唯<sup>ぜい</sup>人<sup>にん</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>を<sup>を</sup>し<sup>し</sup>か<sup>か</sup>つ<sup>つ</sup>た<sup>た</sup>ん<sup>ん</sup>だ<sup>だ</sup>ね。

大川 <sup>も</sup>し<sup>し</sup>か<sup>か</sup>し<sup>し</sup>た<sup>た</sup>ら、<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>ク<sup>ク</sup>ラ<sup>ラ</sup>ス<sup>ス</sup>の<sup>の</sup>中<sup>ちゆう</sup>で<sup>で</sup>唯<sup>ぜい</sup>人<sup>にん</sup>の<sup>の</sup>立<sup>た</sup>場<sup>ば</sup>に<sup>に</sup>立<sup>た</sup>つ<sup>つ</sup>て<sup>て</sup>考<sup>こう</sup>え<sup>え</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>の<sup>の</sup>は、ア<sup>ア</sup>ズ<sup>ズ</sup>だ<sup>だ</sup>け<sup>け</sup>な<sup>な</sup>の<sup>の</sup>か<sup>か</sup>も<sup>も</sup>し<sup>し</sup>れ<sup>れ</sup>な<sup>な</sup>い<sup>い</sup>よ。

あ みんなに<sup>に</sup>やさ<sup>やさ</sup>しく<sup>く</sup>さ<sup>さ</sup>れる<sup>る</sup>だ<sup>だ</sup>け<sup>け</sup>で<sup>で</sup>は<sup>は</sup>な<sup>な</sup>く、唯<sup>ぜい</sup>人<sup>にん</sup>も<sup>も</sup>やさ<sup>やさ</sup>しく<sup>く</sup>な<sup>な</sup>

ら<sup>ら</sup>な<sup>な</sup>く<sup>く</sup>て<sup>て</sup>は<sup>は</sup>い<sup>い</sup>け<sup>け</sup>な<sup>な</sup>い<sup>い</sup>と思<sup>おも</sup>い

い 唯<sup>ぜい</sup>人<sup>にん</sup>が<sup>が</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>く<sup>く</sup>読<sup>よみ</sup>む<sup>む</sup>こ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>が<sup>が</sup>で<sup>で</sup>き<sup>き</sup>な<sup>な</sup>い<sup>い</sup>の<sup>の</sup>は、絶<sup>ぜつ</sup>対<sup>たい</sup>に<sup>に</sup>許<sup>ゆる</sup>す<sup>す</sup>こ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>が<sup>が</sup>で<sup>で</sup>き<sup>き</sup>な<sup>な</sup>い<sup>い</sup>と思<sup>おも</sup>い

う <sup>こ</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>く<sup>く</sup>読<sup>よみ</sup>め<sup>め</sup>な<sup>な</sup>か<sup>か</sup>つ<sup>つ</sup>た<sup>た</sup>ら、本<sup>ほん</sup>番<sup>ばん</sup>で<sup>で</sup>困<sup>こま</sup>つ<sup>つ</sup>て<sup>て</sup>しま<sup>しま</sup>う<sup>う</sup>の<sup>の</sup>は唯<sup>ぜい</sup>人<sup>にん</sup>だ<sup>だ</sup>と思<sup>おも</sup>い

え 唯<sup>ぜい</sup>人<sup>にん</sup>に<sup>に</sup>自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>自<sup>じ</sup>身<sup>しん</sup>を<sup>を</sup>重<sup>おも</sup>ね<sup>ね</sup>て、唯<sup>ぜい</sup>人<sup>にん</sup>も<sup>も</sup>今<sup>いま</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>で<sup>で</sup>い<sup>い</sup>て<sup>て</sup>は<sup>は</sup>い<sup>い</sup>け<sup>け</sup>な<sup>な</sup>い<sup>い</sup>と思<sup>おも</sup>い



【三】 次の各問いに答えなさい。

問1 次の——線部のカタカナを漢字に直して書き、漢字は読みをひらがなで書いて答えなさい。

- ① 今後の活動ホウシ<sup>ン</sup>を伝える。
- ② 飛行機をソウジユウ<sup>スル</sup>。
- ③ あっけないマク切<sup>レ</sup>れをむかえる。
- ④ 磁気<sup>キ</sup>を帯びた金属。
- ⑤ 郷土<sup>ト</sup>の有名人に会う。
- ⑥ 線路沿<sup>ヅ</sup>いの道を走る。

問2 次の各語が対義語（意味が反対の言葉）の組み合わせになるように、□に入る漢字一字を書きなさい。

- ① 得意 ↓ □ 手
- ② 未来 ↓ □ 過
- ③ 差別 ↓ □ 等
- ④ 形式 ↓ □ 内

【四】 次の各問いに答えなさい。

問1 □にあてはまる体の一部を表す漢字を書き、語句を完成させなさい。また、その意味を後から選び、記号で答えなさい。

- ① □にどろをぬる
- ② □に腹はかえられぬ

あ 大切なもののために他を犠牲<sup>ぎせい</sup>にすることのたとえ。  
 い 現状を維持<sup>いじ</sup>しようとして失敗することのたとえ。  
 う 不機嫌<sup>ふきげん</sup>な態度が災い<sup>わざ</sup>を呼んでしまうことのたとえ。  
 え 名誉<sup>めいよ</sup>を傷ついたり恥<sup>はじ</sup>をかかせたりすることのたとえ。

問2 次の①～⑥の□に漢数字を入れて四字熟語を完成させたとき、その漢数字をすべて足すといくつになるか。その数として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

- ① 一石□鳥
- ② 海□山千
- ③ □寒四温
- ④ □心同体
- ⑤ 四苦□苦
- ⑥ 一日□秋

あ 二〇一四      い 一〇一六  
 う 二〇二八      え 一〇二五

問3 次の文中の□に直接かかる言葉を、あきからすべて  
選び、記号で答えなさい。

① あ赤い 服を う着た え背の お高い 男性が  
かタクシーを き呼んだ。

② あ夕べは い食事すら うのどを え通らないほど  
おとても 悲しい かできごとが きあつた。

問4 次の①～⑤の各文について、日本語として正しければあを、  
間違っまちがてていればいを書きなさい。

- ① 兄の立派な行動を他山の石として努力してきた。
- ② 多少苦しくても自分の意志をつらぬくべきだ。
- ③ たまによくあることなので気にしない方がいい。
- ④ 今年の最も大きな目標は漢字をたくさん覚えたい。
- ⑤ あの人にまかせれば十中八九うまくいくだろう。

以上で問題は終わりです。

2024年度 入試向け  
桃山学院中学校 プレテスト第1回 問題

# 算 数

【50分・150点】

## 注 意 事 項

- 1 問題は1ページから5ページまであります。
- 2 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
- 3 円周率は、3.14とします。
- 4 「開始」の合図があるまで問題用紙は開いてはいけません。
- 5 受験番号と名前を解答用紙と問題用紙に正しく記入しなさい。
- 6 計算機能付き腕時計・携帯電話は使用禁止です。
- 7 「終了」の合図で鉛筆を置き、監督の先生の指示に従いなさい。

	受 験 番 号	名 前
P		

1 次の  にあてはまる数を答えなさい。

(1)  $105 - (26 \times 3 + 6) \div 7 = \text{$

(2)  $1.8 \times \frac{13}{22} + 1.8 \times \frac{8}{33} = \text{$

(3)  $\left( \text{} + \frac{6}{5} \right) \div 0.45 - 0.4 = 2.8$

(4)  $5\text{時間} \div 12 + 3\text{分} - 100\text{秒} = \text{分} \text{秒}$

2 次の問いに答えなさい。

(1) 9 でわっても、12 でわっても 3 あまる 2 けたの整数の中で、最も小さい数はいくつですか。

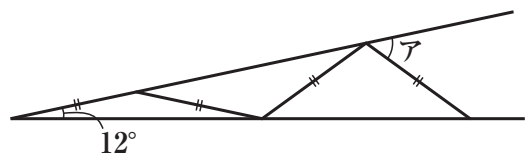
(2) 現在、父の年れいは 46 歳、長男の年れいは 14 歳、次男の年れいは 10 歳です。父の年れいが長男の年れいの 5 倍だった年は、父の年れいが次男の年れいの 5 倍だった年の何年前ですか。

(3) ある動物園に、大人 2 人と子ども 3 人で行ったときの入園料の合計は 2090 円でした。大人 1 人の入園料は子ども 2 人の入園料の合計より 110 円安い金額です。この動物園の大人 1 人の入園料は何円ですか。

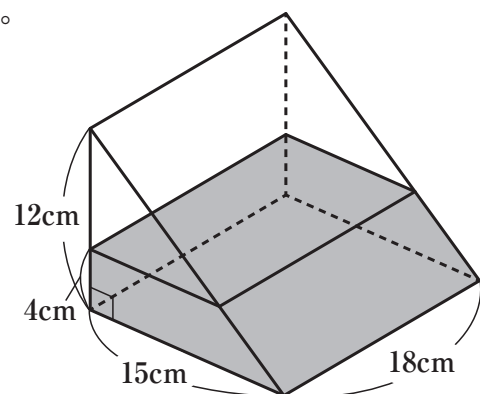
(4) 40 人のクラスで 5 点満点のテストを行ったところ、平均点は 3.1 点でした。このテストの結果を表す右の表の A にあてはまる数はいくつですか。

得点 (点)	0	1	2	3	4	5
人数 (人)	1	3	A	1	9	6

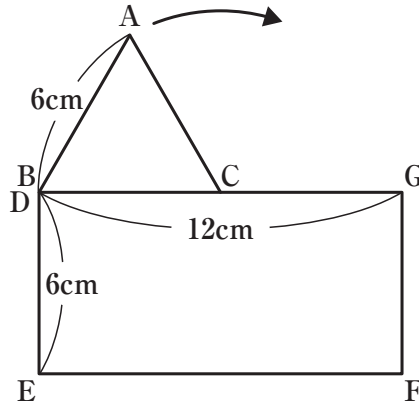
(5) 右の図で、同じ印をつけた辺の長さはすべて等しくなっています。A の角の大きさは何度ですか。



(6) 右の図のように、三角柱の容器に水が入っています。この容器を、三角形が底面になるように向きを変えると、容器に入った水の深さは、底面から何 cm になりますか。



- 3** 図のように、1辺が6cmの正三角形ABCと、たての長さが6cm、横の長さが12cmの長方形DEFGがあります。正三角形ABCが長方形DEFGのまわりを、図の位置から矢印の方向にすべることなく回転しながら1周し、元の位置にもどりました。このとき、次の問いに答えなさい。



- (1) 正三角形ABCが長方形DEFGのまわりを1周する間に、長方形DEFGの頂点Fと重なるのは、A, B, Cのどれですか。
- (2) 正三角形ABCが長方形DEFGのまわりを1周してもとに位置に戻ったとき、もとの三角形ABCの頂点Aの場所にもどってくるのは、A, B, Cのどれですか。
- (3) 頂点Aが動いた道のりは何cmですか。

**4** 1円硬貨<sup>こうか</sup>，5円硬貨，10円硬貨，50円硬貨，100円硬貨，500円硬貨がそれぞれ1枚ずつあります。これらの中から何枚かを選びます。このとき，次の問いに答えなさい。

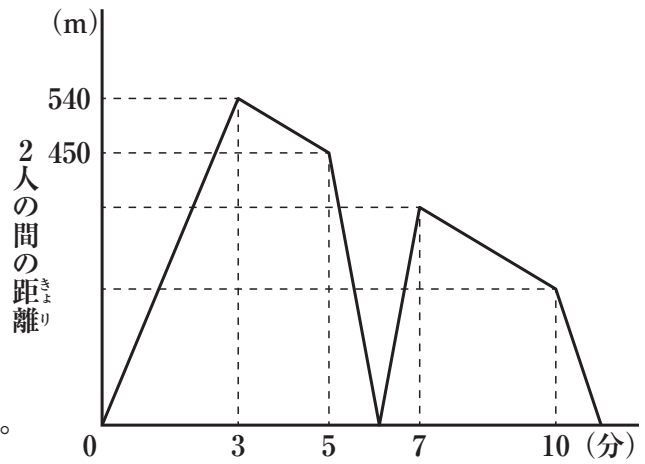
(1) 6枚の硬貨の中から2枚を選ぶとき，合計金額が3で割り切れる場合は何通りありますか。

(2) 6枚の硬貨の中から3枚を選ぶとき，3で割り切れる合計金額をすべて答えなさい。

**5** <sup>から</sup>空の水そうに水を入れます。<sup>なべ</sup>鍋を使って入れると、ちょうど100回で水そうがいっぱいになります。バケツを使って入れると、24回で水そうがいっぱいになる量の6割の水が入ります。このとき、次の問いに答えなさい。

- (1) 鍋とバケツそれぞれ1回分の水の体積の比を最も簡単な整数の比で答えなさい。
- (2) はじめに鍋で30回水を空の水そうに入れました。続けてバケツだけで水を入れるとき、あと何回で水そうがいっぱいになりますか。
- (3) バケツ→鍋→バケツ→鍋→…の順に、バケツと鍋を交互にを使って空の水そうに水を入れるとき、合わせて何回目まで水そうがいっぱいになりますか。

6 花子さんと太郎さんがP地点からQ地点までの直線上の道のりを、それぞれ一定の速さで走って往復します。先に花子さんがP地点を出発し、3分遅れて太郎さんがP地点を出発しました。右のグラフは、花子さんが出発してからの時間と2人の間の距離の関係を表したものです。このとき、次の問いに答えなさい。



- (1) 太郎さんの走る速さは分速何 m ですか。
- (2) P 地点から Q 地点までの道のりは何 m ですか。
- (3) 2 人がすれちがったのは、P 地点から何 m の場所ですか。

以上で問題は終わりです。



2024年度 入試向け

桃山学院中学校 プレテスト第1回

# 解答と配点

## 目次

### 解答

1 国語 (50分・150点) ..... P. 1

2 算数 (50分・150点) ..... P. 1

配点 ..... P. 2

# 解 答

## 国 語

- 一** 問1 衣食住                      問2 え              問3 【い】  
問4 a あ      b い  
問5(例) 食料を確保するための力や体力のみが重要視され、それ以外の個性が必要  
とされない世界になる。[44字]  
問6 I 他人の能力      II 共感能力      III 自分の体  
問7 う              問8 い              問9 ① い      ② あ      ③ あ      ④ い
- 二** 問1 う              問2 い              問3 え  
問4 I 大きな声      II 見のがして  
問5 B う      C あ      D え      E い              問6 い  
問7 い              問8 う  
問9 X 空気がつらかった      Y やさしさの中の孤独      Z う
- 三** 問1 ① 方針      ② 操縦      ③ 幕  
            ④ じき      ⑤ きょうど      ⑥ ぞ(い)  
問2 ① 苦      ② 去      ③ 平      ④ 容
- 四** 問1 ① 顔・え      ② 背・あ              問2 あ  
問3 ① う・お      ② え・お  
問4 ① い      ② あ      ③ い      ④ い      ⑤ あ

## 算 数

- 1** (1) 93      (2)  $\frac{3}{2}$       (3)  $\frac{6}{25}$       (4) 26分20秒
- 2** (1) 39      (2) 5年前      (3) 550円      (4) 8  
(5) 48度      (6) 10cm
- 3** (1) 点B      (2) 点A      (3) 69.08cm
- 4** (1) 9通り      (2) 111円, 555円
- 5** (1) 2:5      (2) 28回      (3) 57回目
- 6** (1) 分速225m      (2) 900m      (3) 700m

# 配 点

## 国 語

一	問 1…3 点 問 4…各 2 点 問 7…4 点	問 2…4 点 問 5…10 点 問 8…4 点	問 3…4 点 問 6…各 3 点 問 9…各 3 点	合計 54 点
二	問 1…4 点 問 4…各 3 点 問 7…5 点	問 2…4 点 問 5…5 点 問 8…6 点	問 3…4 点 問 6…4 点 問 9…各 6 点	合計 56 点
三	各 2 点			合計 20 点
四	各 2 点 (問 1・問 3 各完答)			合計 20 点

## 算 数

1	各 8 点	合計 32 点
2	各 8 点	合計 48 点
3	各 6 点	合計 18 点
4	各 8 点	合計 16 点
5	各 6 点	合計 18 点
6	各 6 点	合計 18 点

2024年度入試向け プレテスト第1回  
解説

**1** 計算問題

(1)  $105 - (26 \times 3 + 6) \div 7 = 105 - (78 + 6) \div 7 = 105 - 84 \div 7 = 105 - 12 = 93$

(2)  $1.8 \times \frac{13}{22} + 1.8 \times \frac{8}{33} = 1.8 \times \left( \frac{13}{22} + \frac{8}{33} \right) = \frac{9}{5} \times \frac{5}{6} = \frac{3}{2}$

(3)  $\left( \square + \frac{6}{5} \right) \div 0.45 = 2.8 + 0.4 = 3.2 \quad \square + \frac{6}{5} = 3.2 \times 0.45 = 1.44 \quad \square = 1.44 - \frac{6}{5} = \frac{6}{25}$

(4)  $5\text{時間} \div 12 + 3\text{分} - 100\text{秒} = 300\text{分} \div 12 + 3\text{分} - 1\text{分}40\text{秒} = 25\text{分} + 3\text{分} - 1\text{分}40\text{秒} = 26\text{分}20\text{秒}$

**2** 小問集合(1) 9 と 12 の最小公倍数は 36 なので、9 でわっても、12 でわっても 3 あまる 2 けたの整数で最も小さい数は、 $36 + 3 = 39$ (2) 父の年れいが子の年れいの 5 倍になるときの 2 人の年れいの差は子の、 $5 - 1 = 4$ (倍)父が長男の 5 倍だったときの長男は、 $(46 - 14) \div 4 = 8$ (歳)で、 $14 - 8 = 6$ (年前)父が次男の 5 倍だったときの次男は、 $(46 - 10) \div 4 = 9$ (歳)で、 $10 - 9 = 1$ (年前)6 年前は 1 年前の、 $6 - 1 = 5$ (年前)

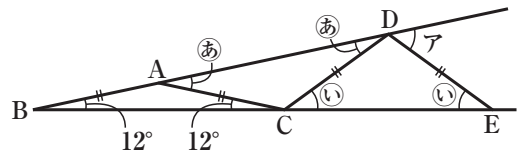
(3) 大人 2 人の入園料は子ども 4 人の入園料より 220 円安い金額だから、大人 2 人と子ども 3 人の合計 2090 円は子ども 7 人より 220 円安い金額である。

子ども 1 人は、 $(2090 + 220) \div 7 = 330$ (円) 大人 1 人は、 $330 \times 2 - 110 = 550$ (円)(4) 2 点と 3 点の合計人数は、 $40 - (1 + 3 + 9 + 6) = 21$ (人) 2 点と 3 点の合計点は、 $3.1 \times 40 - (0 \times 1 + 1 \times 3 + 4 \times 9 + 5 \times 6) = 55$ (点) 2 点の人数は、 $(3 \times 21 - 55) \div (3 - 2) = 8$ (人)

(5) 三角形 ABC は二等辺三角形だから、

㊸の角は、 $12^\circ + 12^\circ = 24^\circ$ 

㊹の角は、三角形 BCD の外角より、

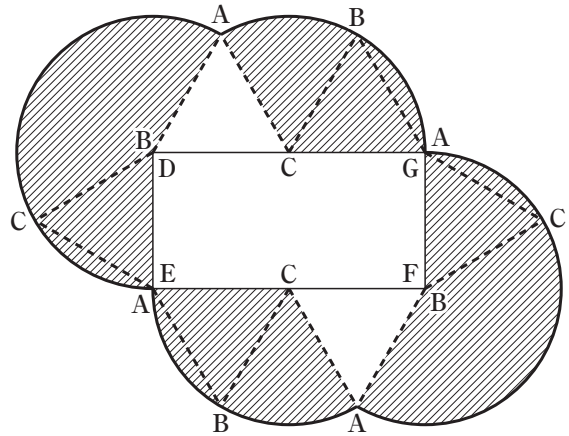
 $12^\circ + 24^\circ = 36^\circ$ アの角は、三角形 DBE の外角より、 $12^\circ + 36^\circ = 48^\circ$ (6) はじめに入っている水の形を四角柱とみると、底面は上底が、 $15 \times \frac{2}{3} = 10$ (cm)の台形である。水の体積は、 $(10 + 15) \times 4 \div 2 \times 18 = 900$ ( $\text{cm}^3$ ) 底面を三角形にしたときの水の深さは、 $900 \div (15 \times 12 \div 2) = 10$ (cm)**3** 図形の回転移動

(1) 正三角形 ABC が長方形 DEFG のまわりを 1 周すると次のページの図のようになる。長方形 DEFG の頂点 F と重なる点は、頂点 B

(2) 次のページの図より、正三角形 ABC が長方形 DEFG のまわりを 1 周してもとに位置に戻っ

たとき、もとの三角形 ABC の頂点 A の場所にもどってくるのは、頂点 A

- (3) 頂点 A は図の太線部分を移動する。太線は直径が、 $6 \times 2 = 12$  (cm) で中心角が、 $180^\circ - 60^\circ = 120^\circ$  と、 $360^\circ - (60^\circ + 90^\circ) = 210^\circ$  のものが 2 つずつである。中心角の和は、 $(120^\circ + 210^\circ) \times 2 = 660^\circ$  太線の長さは、 $12 \times 3.14 \times \frac{660}{360} = 69.08$  (cm)



#### 4 組み合わせ

- (1) 硬貨 1 枚の金額を 3 で割ったときのあまりを整理すると、表のようになっている。

硬貨の種類	1円	5円	10円	50円	100円	500円
3で割ったあまり	1	2	1	2	1	2

硬貨から 2 枚を選んで合計金額が 3 で割り切れるのは、3 で割ったあまりの和が 1 と 2 をたした 3 になるときである。(1 円, 5 円), (1 円, 50 円), (1 円, 500 円), (5 円, 10 円), (5 円, 100 円), (10 円, 50 円), (10 円, 500 円), (50 円, 100 円), (100 円, 500 円) の 9 通り。

- (2) 硬貨から 3 枚を選んで合計金額が 3 で割り切れるのは、3 で割ったあまりの和が  $1+1+1=3$  になるときと  $2+2+2=6$  になるときで、合計金額は (1 円, 10 円, 100 円) のとき 111 円, (5 円, 50 円, 500 円) のとき 555 円。

#### 5 割合と比の文章題

- (1) 鍋 1 回は水そうの  $\frac{1}{100}$ , バケツ 1 回は水そうの  $0.6 \div 24 = \frac{1}{40}$ ,  $\frac{1}{100} : \frac{1}{40} = 2 : 5$
- (2) 鍋 1 回を  $\boxed{2}$ , バケツ 1 回を  $\boxed{5}$  とすると水そうは,  $\boxed{2} \times 100 = \boxed{200}$  鍋 30 回で入れた水は,  $\boxed{2} \times 30 = \boxed{60}$  残り,  $\boxed{200} - \boxed{60} = \boxed{140}$  をバケツで入れると,  $\boxed{140} \div \boxed{5} = 28$  (回)
- (3) バケツ  $\rightarrow$  鍋の 2 回で入る水は,  $\boxed{5} + \boxed{2} = \boxed{7}$   $\boxed{200} \div \boxed{7} = 28$  あまり  $\boxed{4}$  より, あまりの  $\boxed{4}$  はバケツ 1 回で入るから,  $2 \times 28 + 1 = 57$  (回目)

#### 6 へだたりのグラフ

- (1) はじめの 3 分間は花子さんだけが走っているから、花子さんの分速は、 $540 \div 3 = 180$  (m)  
3 分から 5 分の間は太郎さんが花子さんを追いかけているから、太郎さんが花子さんより、 $(540 - 450) \div (5 - 3) = 45$  (m/分) 速い。太郎さんの分速は、 $180 + 45 = 225$  (m)
- (2) 花子さんは 0 分から 5 分で P 地点から Q 地点まで走るから、 $180 \times 5 = 900$  (m)
- (3) 5 分後の 2 人<sup>きより</sup>の間の距離が 450m で、ここから 2 人が出会うのが、  
 $450 \div (225 + 180) = \frac{10}{9}$  (分後) 太郎さんが出発してから、 $5 - 3 + \frac{10}{9} = \frac{28}{9}$  (分後) なので、  
P 地点から、 $225 \times \frac{28}{9} = 700$  (m)

## ■ 説明的文章

- 問1 内容を理解し、語句を答える問題です。直後に「私が身に着けている衣服も毎日食べている食料も、住んでいる家も、自分で作ったものではありません」とあります。現在は、「皆が自分以外の誰かのために質の高い仕事をするので、全員が安全で快適な生活を送ること」ができるという協力関係にあるため、大学教員である筆者は、大学で講義や研究をして給料をもらい、衣服、食料、住む家という「衣食住」を自分で賄う（調える）ことができるのです。⑭段落にも、「人間が衣食住をすべて個人で賄っていたら、……」とあります。
- 問2 内容理解の問題です。「これは大きな協力関係です」と続いています。この「これ」とは、①段落の最後の「(衣食住に関するものは)自分で作ったものではありません。作ろうと思っても質の高いものは作ることができません。その代わりに他のもっと技術のある人間が仕事として作ってくれたものを買っています」を指しています。このことは、現代人にとっては当たり前すぎることなので、普段はあまり意識しません。しかし、筆者は、このことを「大きな協力関係」であると断言し、その後、「皆が自分以外の誰かのために質の高い仕事をするので、全員が安全で快適な生活を送ることができています」と説明しています。以上から、この内容に合うえが正解になります。あは、「特定の仕事をすることで生きていけるようになっていく」のは、「大きな協力関係」の結果であるということと合わない。いは、「衣服や食料、住んでいる家などは、……本来は自分で作るべきものである」という内容が本文中にないので、うは、現実的に「全員が安全で快適な生活を送ることができています」とあるので、それぞれ合いません。
- 問3 ぬけている文を本文に戻す問題です。「きっと粗末な衣服しか作れないことでしょう。」とありますが、どういう状況なら、あるいは、誰が衣服を作るようになったら、「粗末な衣服しか作れない」という事態になるかを考えていくと、「衣服を作る仕事の人が全員辞めてしまったら、みんな自分の服は自分で作らないといけなくなります」の後に入ることがわかります。
- 問4 語句の本文中での意味を答える問題です。—— a 「おびやかされている」の「おびやかす」は、「(地位や職務などを)危うくさせる」という意味です。問2で解説したように、「私たち人間は、現在、社会という大きな協力関係の網の目の中に組み込まれています」というのが、筆者の主張です。ここで、「社会の中に組み込まれる」ということは「社会の歯車になる」ということですが、「社会の歯車になる」と言うと、あまりいい印象はなく、「自分の個性とかアイデンティティが危うくされている(失われる危険性がある)」と感じるかもしれません。しかし、それは誤解で、「むしろ社会の歯車になることでほとんどの人は個性を発揮して、みんなの役に立てるのだ」と、筆者は述べています。—— b 「強いる」は、「強要する、強制する」という意味です。筆者は、協力することで増えてきた人間という生物にとって、協力することが増えることに貢献すればするほど、協力を善いものとみなし、他人にもそれ(協力)を強要する(むりやり求める)性質が子孫の中で強化されていくと述べています。
- 問5 内容を理解し、設問の指示にしたがって記述する問題です。「社会が全く存在しない状況」

の例として、筆者は、「父親、母親、小さい子どもの3人家族だけで無人島で暮らしているような状況」を挙げています。筆者は、そのような状況では、「なにより必要なのは、獲物<sup>えもの</sup>をしとめたり、食料を確保する能力です。力や体力が何よりも重要です。強く丈夫<sup>じょうぶ</sup>で健康な人間だけが生き残る世界です。それ以外の個性には出番がありません」と述べていますが、「それ以外」の「それ」とは、「力や体力」を指します。

#### 【まとめ方】

- ・例1 獲物をしとめたり食料を確保したりするための力や体力が必要とされ、それ以外の個性の出番のない世界。(48字)
- ・例2 何よりも食料確保のための力や体力が必要とされ、それ以外の個性には出番のない世界になる。(43字)

設問の指定は、「個性」という言葉を必ず使い、「四十字以上五十字以内」で書くことなので、それに従ってまとめていきます。さらには、「どのような世界になると筆者は述べているか」とあるので、文末を「……世界。」、あるいは、「……世界になる。」と結ぶ必要もあります。

解答例：※食料を確保するための力や体力のみが重要視され、それ以外の個性が必要とされない世界になる。(44字)

問6 内容理解の問題です。⑧段落に「人間という生物が増える単位も変わってきます」とありますが、⑧段落は「人間以前の生き物」の増え方の説明になっており、人間の増え方は⑨段落で説明されています。空欄<sup>くうらん</sup>にあてはまる言葉については、Ⅰは、直前の「自分が生き残るために」と直後の「を重視し」、Ⅱは、直前の「元々備わっている」と直後の「を生かして」、Ⅲは、直後の「を<sup>こ</sup>超えて増える」が、それぞれ手がかりになります。Ⅰは、⑨段落に「自分が生き残って増えるためには他の人の能力も重要です」とあるので、「他の人の能力」があてはまり、Ⅲは、同じ⑨段落に「増える単位が自分の体を超えて広がっている」とあるので、「自分の体」があてはまります。Ⅱは、直前の「元々備わっている」に着目すると、⑫段落に「人間には他者を認識<sup>にんしき</sup>する知能や、他者の気持ちを察することのできる共感能力も備わっています」とあり、この「共感能力」をあてはめると、意味が通ります。

問7 内容理解の問題です。「少産少死」とは、文字通り、「少なく生まれ少なく死ぬ」ということです。また、直後に「命を大事にして長く生きるようになり」とあるので、うが正解になります。あは、「できるだけ若いうちに子どもを産むようにし」が、いは、「可能な限り出生数をおさえる」が、えは、「生まれてから成長するまでにあえて時間をかける」が、それぞれ合いません。

問8 内容理解の問題です。「この他者と協力をする効果は圧倒的<sup>あつとうてき</sup>です」とあり、どのように「圧倒的」であるかは、地球上の人口を例に、2022年現在約80億人に達し、やがては110億人くらいに落ち着くと予想されていると説明されています。一方、人間と同じくらいのサイズの類人猿<sup>るいじんえん</sup>でありながら、人間のように他者と協力することのないチンパンジーやニシローランドゴリラの生息数は、それほどでもないことが示されています。以上から、「人間の数は破格といえるほどまでに増えたから」とあるうが正解になります。あは、本文は「すべての場所<sup>ところ</sup>を踏破し」なので、合いません。うは、「110億人程度におさえることが可能になった」が、



- えは、「チンパンジーやニシローランドゴリラの生息域が広がった」が、それぞれ合いません。
- 問9 本文の内容を理解して、それぞれの文の正誤を<sup>せいご</sup>考える問題です。①～④の文が、それぞれ本文中のどの部分に対応しているかを探して考えていくとよいでしょう。①は、①段落・③段落の内容に対応しています。本文は、「協力関係」について、「職業」を例にして述べた文章です。また、「職業という協力関係の重要性」を説明するために、「誰かが仕事を辞めたらどうなるか」を考えていくという方法で論を進めています。一方、①は「最も重要なことは『職業』である」、「仕事を辞めるということは、社会に対して協力する気持ちはない」とあり、本文とは論点が合っていません。②は、②段落・⑦段落の内容に対応しています。本文中には、「少なくとも狩猟採集社会よりは、今の社会の方が自分に合った役割（歯車）が見つかる可能性が高いように思います」や「皆が自分以外の誰かのために質の高い仕事をするこ<sup>しゅりょう</sup>とで、全員が安全で快適な生活を送ることができています」とあり、②の内容と合います。③は、⑥段落・⑦段落の内容に対応しています。本文中には、「(私たちの社会には)力や体力が必要な職業もあれば、勉強や絵を描くこと<sup>か</sup>やコミュニケーション能力が必要な職業もあります。どれか1つの能力が優れていれば、十分に活躍<sup>かつやく</sup>の場が見つかります」とあり、③の内容と合っています。④は、⑩段落～⑫段落の内容に対応しています。人間に、非血縁<sup>ひけつえん</sup>個体と協力するという特殊な能力が生まれた理由については、特定されているわけではありませんが、「元をたどれば少産少死の戦略によってもたらされたもの」だと述べられています。また、「人間には他者を認識する知能や、他者の気持ちを察することのできる共感能力も備わっています」とありますが、これは、④にある「自分とは別の個体との血縁の有無を認知する能力」ではありません。

## 文学的文章

- 問1 登場人物の心情理解の問題です。言葉につかえて、かたまってしまった唯人<sup>ゆいと</sup>に、浩也<sup>ひろや</sup>は「かまへん。かまへん」と言い、さらには、いっしょに読んでくれようとして、「よっしゃ、いくで。せーの」と声をかけています。ここから、ピンチにおちいった唯人を救ってあげたいと思っている浩也の心情を読み取ることができるので、うが正解になります。あは、「唯人よりも自分の方が上手に読めることをのみり先生に認めてもらおう」というように読み取れる記述が本文中にないので、適切ではありません。いは、「少し腹を立てている」が適切ではありません。また、えは、唯人はすでに失敗してしまっているのに、「唯人が失敗しそうになっているのであせっている」が適切ではありません。
- 問2 内容理解の問題です。「今までにも何度か、唯人はこんなふうに教室を出てしまったことがある。とにかく、ろうかに出てひとりで気持ちを落ち着かせようとした」とあります。今回も、唯人は「その場からにげだしたい」と思い、のみり先生に「目でうったえて」います。唯人の視線を感じたのみり先生は、「唯人がろうかに出て気持ちを落ち着かせること」に対し、「仕方ないわね」という顔をしたのです。あは、「唯人の読む部分の代わりを浩也がつとめる」が合いません。本文中には、「唯人がぬけると、アズが自分の分担を読み始めた」とあり、唯人の読む部分は誰も読んでいません。うは、「唯人が同じ部分で何度も読みまちがえてしまうこと」が適切ではありません。唯人が読みまちがえたのは二回ほどですが、何より、み

のり先生は、唯人がこの場をにげだしたいと思っていることを知っているからです。えは、「唯人が教室から出て洋ちゃんに会いに行くこと」が適切ではありません。洋ちゃんに会いたくとも、授業中なので、洋ちゃんに会うことはできません。以上から、正解はいになります。

- 問3 内容理解の問題です。いつ教室にもどろうかと考えながら、ひざをかかえてすわりこんでいる唯人のところに、「すねているの？」と言いながら、アズが近寄って来ました。アズは、「どうして読まなかったの？ 唯人くん、いつもそうしているの？」と聞いてきましたが、唯人がだまっていると、大きな声で「ねえ、どうして読まなかったの！ にげだすってどういうこと！」と、「いきなり、ものすごいけんまく」で、唯人にくっつかかかってきました。「いつものアズはこんなにおこったりはしない。唯人がだまっていると、すぐにあきらめてくれる。本読みの途中<sup>とちゅう</sup>でにげだした唯人によっぽど腹が立ったのだろうか」とありますが、近寄って来たときから、アズは腹が立ったのか、「こわい顔」をしていたのです。あの「やさしい顔」、いの「困った顔」、うの「すずしい顔」のいずれも、この場面でのアズの表情としては適切ではありません。
- 問4 登場人物の心情理解の問題です。アズは、大きな声で唯人をしかりつけています。その声が教室の中にも届いたのでしょうか、教室の窓からみんながチラチラと二人を見てきました。みんなは、「唯人はそういう子や。おこったらあかん。見のがしてやれよ。そっとしといたらええやんか」というような目線だったとあります。ここから、「大きな声」で唯人をしかりつけるアズにたいして、「見のがして」あげればよいと感じている、みんなの気持ちが読み取れます。
- 問5 内容を理解し、会話文を補充<sup>ほしゅう</sup>する問題です。□B□の前の「唯人くんが何か悪いことをしたんとちがうでしょ？」は、みのり先生の言葉なので、□B□にはアズが言ったものが入ることになります。さらには、□E□の後の「だってあたし、人にやさしくできないんだもの。今日だって唯人くんがこまっているのに、こんなにおこっちゃって」は、アズの言葉なので、□E□にはみのり先生が言ったものが入ることになります。したがって、アズが言ったものは□B□と□D□に、みのり先生が言ったものは□C□と□E□に入ることになります。あ・い・う・えの言葉を見ていくと、うは「あたし」という自分と呼ぶ言葉からアズが言ったものであること、あとうには、「ふくらむ」という言葉が共通してあり、うを受けてあが発せられたこと、また、いとえには、「きらい」という言葉が共通してあり、えを受けていが発せられたことがわかります。「ふくらむ」と「きらい」という言葉の先後が問題になりますが、□E□の後の「だってあたし、人にやさしくできないんだもの。今日だって唯人くんがこまっているのに、こんなにおこっちゃって」に続いて、みのり先生は「そっか。どうしたら自分のこと、好きになれるんやろうね」と言っているので、□D□、□E□は「きらい」に関する内容になると見当がつきます。以上から、う → あ → え → い の順になります。
- 問6 語句の知識と内容理解の問題です。唯人は、「学校でだれかにおこられるなんてこと、今までただの一度も」なく、「ピンチのときは、いつも洋ちゃんに助けてもらうか、みんなに見のがしてもらうかしてきた」のでした。しかし、今日、アズにしかられ、最後は「決めたとおりに読めばいいだけじゃない！ 難しいことなんて何もないでしょ」とまで言われてい

ます。唯人は、自分に向かって「ずけずけとふみこんできた」のは、アズが初めてだと感じています。「ずけずけ」は、遠慮<sup>えんりよ</sup>しないでものを言う様子を表す言葉です。

問7 登場人物の心情理解の問題です。アズに「おこられたんはショックやったけど、そればかりやない。今まで知らなかった。こんな気持ち」とあります。唯人は、「ピンチのときは、いっつも洋ちゃんに助けてもらうか、みんなに見のがしてもらうかしてきた」のでしたが、今までは、それが当然であり、そのことに何の疑問も感じていませんでした。しかし、今回、アズにしかられたことで、今までとは違う<sup>ちが</sup>気持ちになっています。「こんな気持ち」とは、今までのように助けてもらったり見のがしてもらったりするのはやめにして、自分でどうにかしようという前向きな気持ちです。あは、「あの雲みたいに」はたとえの表現であって、実際にじいちゃんといっしょに凍雲<sup>いてぐも</sup>を見てみたいというわけではないので、うの「自分のことを情けなく感じる気持ち」、えの「うまく読むことができなかつたという残念でたまらない気持ち」は、唯人の心の中に生じた前向きな気持ちではないので、適切ではありません。今までの態度を改めようとする気持ちが表れているい<sup>い</sup>が正解になります。

問8 登場人物の人物像理解の問題です。みのり先生が登場する場面を見ていきましょう。

1. 紙芝居<sup>かみしばい</sup>の練習が始まる場面。みのり先生は、「初めてだからゆっくり、正しくね。慣れてきたらセリフを言うみたいに気持ちをこめて読みましょう。あとから聞き合って感想を言ってもらいますよ」と言っています。
2. 唯人が読み合わせでつかえた場面。唯人がその場からにげだしたいと思い、みのり先生のほうをちらっと見ると、(みのり先生は)仕方がないわねという顔をしています。
3. 唯人がアズからしかられた後の場面。唯人とアズのやり取りを見ていた、みのり先生は、「もう、そのくらいで。ね」と言って、唯人とアズを教室に手招きしています。そして、アズに「八つ当たりしたらあかんのよ」「唯人くんが何か悪いことをしたん<sup>か</sup>とちがうでしょ?」と言ったあとで、アズと言葉を交<sup>か</sup>わしています。そしてなみだ声になったアズに、「そっか。どうしたら自分のこと、好きになれるんやろうね」と言い、今度は一転して、「きつとこたえが見つかると思うわ。このクラス、おもろいんやから。ねえ、唯人くん」と、唯人に話をふっています。

この三つの場面から、みのり先生の人物像をとらえましょう。あ「問題が起きたときにはできるだけ自分で解決させたいと考えている」とありますが、2・3の場面の先生の言動とは合いません。い「大きな失敗をしてしまった子どもにたいしてもおおらかな気持ちで接することができる」とありますが、本文中には、特別「大きな失敗をしてしまった」子どもは登場しません。また、「クラスの子どもたち全員からの信頼<sup>しんらい</sup>を集めている先生」であると思わせるような記述もありません。う「クラスの子どもたちの短所に気づいてはいるが、自分の考えをおしつけて改善させようとはせず」は、2・3の場面、「成長をゆっくり見守っていこうと考えている」は、1の場面から読み取ることができます。え「クラスにはいろいろな子どもたちがいるので、それぞれがおたがいの性格を理解して」は、3の場面からうかがえますが、「ひとりぼっちの人を作らないように配慮<sup>はいりよ</sup>していきたいと考えている」は、本文から読み取ることできません。以上から、うが正解になります。

問9 内容理解の問題です。唯人は、家で練習するとすらすらと読むことができましたが、みんな

の前で読むと「はぎのかぶ」のところであげてしまうのでした。唯人は、そのような自分にハッパをかけ、なんとか口を動かそうとしましたが、がんばろうと思えば思うほど、口が動かなくなりました。アズとの一件があって以来、アズにはおこられなくなったし、クラスのみんなは、いつもと変わらず唯人のことをヤジったりせずに待っていてくれましたが、唯人には「その空気がつらかった」のでした。したがって、**X**には、「空気がつらかった」が入ります。また、アズからしかられた唯人の心には、アズの「唯人くん、いつもそうしているの?」「にげだすってどういうこと!」という言葉が重くのしかかっています。唯人は、みんなが自分を待ってくれる、自分を笑ったりなんかしないと思うものの、心の中には「おれはひとりぼっちや」という感情が生まれ始めていましたが、それは、「やさしさの中の孤独」とでも言うべきものでした。したがって、**Y**には、「やさしさの中の孤独」が入ります。ところで、アズは唯人をしかりましたが、その間の事情をみのり先生に問われて、「だってあたし、人にやさしくできないんだもの。今日だって唯人くんがこまっているのに、こんなにおこっちゃって」と言っています。ただし、アズが唯人に言った言葉は、どれも間違いではなく、唯人がアズの言葉を受け止めて直していけば、唯人のプラスになるものばかりです。さらには、話し合いの中の最後、大川さんの「もしかしたら、このクラスの中で唯人の立場に立って考えているのは、アズだけなのかもしれないよ」から、**Z**に入る語句を考えていくと、うの「このまうまく読めなかったら、本番で困ってしまうのは唯人だと思い」になります。あの「みんなにやさしくされるだけではなく、唯人もやさしくならなくてははいけない」は、アズが唯人をしかる場面の状況を考えると、適切ではありません。いは、アズは「唯人くんがこまっているのに、こんなにおこっちゃって」と言っているのに、「絶対に許すことができないと思ひ」が適切ではありません。えは、「唯人に自分自身を重ねて」とありますが、本文中からは、唯人とアズに重なるものは読み取れないため、適切ではありません。

### 漢字・語句

- 問1 漢字の読み書きの問題です。読み、書き、ともに、ていねいに書くという意識を持ちましょう。略字や雑で読めない字は正答になりません。①の「方針」は、磁石の方向を指し示す針のことですが、転じて、あることがらを行ううへの基本的な行き方、目指す方向を意味します。②の「操縦」の「操」の訓読みは「あやつ(る)」、「縦」の訓読みは「たて」です。「従」と書かないように注意しましょう。③の「幕切れ」は、物事の終わりという意味です。「幕」に訓読みはなく、「マク・バク」は音読みです。④の「磁気」とは、磁石が鉄などを引き付ける性質のことです。「磁」は、14画の漢字です。⑤の「郷土」とは、その人が生まれ育った土地、ふるさとのことです。「郷」に訓読みはなく、「キョウ・ゴウ」は音読みです。⑥の「沿」の音読みは「エン」で、「沿岸」「沿線」などの熟語があります。
- 問2 対義語の問題です。①「得意⇔苦手」という対義語です。「得意」には、自信があつてとても慣れていることという意味があり、その場合の対義語は「苦手」です。②「未来⇔過去」という対義語です。③「差別⇔平等」という対義語で、「対等」ではありません。「平等」は、すべてに差別がなく等しいこと、「対等」は、二つのものごとの間に優劣、高低な

どの差がないことです。④「形式⇔内容」という対義語です。「形式」は、事物や現象の内容に対し、外から認められるものとしての形のこと、「内容」は、事物や現象を成り立たせている実質や意味のことです。

#### 四 語句・言葉のきまり

- 問1 ことわざ・慣用句の知識の問題です。ことわざ・慣用句の中には、身体の一部を用いたものがたくさんあります。日常生活の中で見たり聞いたりしたことわざ・慣用句があったら、ことわざ・慣用句の本や辞書で意味を覚えましょう。①は、「顔にどろをぬる」です。この場合の「顔」は対面・面目めんもくという意味で、「顔にどろをぬる」で、「体面をけがす、恥はじをかかせる」という意味になります。したがって、意味としては、えが正解になります。「顔」を用いたことわざ・慣用句には、「私の顔も三度」「顔から火が出る」「顔が利く」「顔を売る」「顔を貸す」などがあります。②は、「背に腹はかえられぬ」で、「目の前の重大なことのためには、他を犠牲ぎせいにすることもやむをえない」という意味のことわざです。「背」を用いたことわざ・慣用句には、「どんぐりの背せいくらべ」「背を向ける」などがあります。
- 問2 四字熟語じやくごの知識の問題です。①「一つのことをして、同時に二つの利益を得ること」という意味の「イッセキニチョウ」は、「一石二鳥」と書きます。②「多くの経験を積み、社会の裏表に通じていて、悪がしこい（こと・人）」という意味の「ウミセンヤマセン」は、「海千山千」と書きます。③「寒さ暖かさをくり返す（気候）」という意味の「サンカンシオン」は、「三寒四温」です。④「異なったものが一つの心、一つの体のように強く結び付くこと」という意味の「イッシンドウタイ」は、「一心同体」と書きます。⑤「つらいことが多くて非常に苦しむこと」という意味の「シクハック」は、「四苦八苦」です。⑥「非常に待ち遠しいこと」という意味の「イチジツセンシュウ」は、「一日千秋」と書きます。したがって、□に入る漢数字をすべて足すと、あの「二〇一四」になります。
- 問3 文節の係り受けの問題です。文節がどこにかかるかは、かかる文節と受ける文節を直接つなげて、うまく意味が通るかどうかで確認するとよいでしょう。
- ①は、(赤い 服を) ㉔着た 男性が、(背の) ㉕高い 男性が、となります。
- ②は、(のどを) ㉖通らないほど 悲しい、㉗とても 悲しい、となります。
- 問4 日本語全般ぜんぱんに関する問題です。
- ① 「他山の石」とは、よその山から出た粗悪そあくな石ということで、劣おとっている、つまらないという意味を含みます。したがって、「兄の立派な行動を他山の石として」が間違いです。
- ② 正しい日本語です。
- ③ 「たまに」は、まれに、たまたまという意味なので、「よくある」と反します。「たまにあることなので……」、あるいは、「よくあることなので……」でしたら、間違いのない正しい日本語になります。
- ④ この文の主語は「目標は」、述語は「覚えたい」なので、主語と述語が一致いっちしていません。「今年の最も大きな目標は、漢字をたくさん覚えることです。」、あるいは、「今年の最も大きな目標として、私は、漢字をたくさん覚えたい。」などのようにすれば、日本語として正しいものになります。

- ⑤ 正しい日本語です。「十中八九」は、十のうち八つか九つということで、大部分、おおかたという意味になります。